

参考資料 4

健康日本 21 における歯科保健分野の目標値

健康日本 21 における歯科保健目標

A 幼児期の齲蝕予防

1 3 歳児における齲蝕のない者の割合の増加

目標値:3 歳児における齲蝕のない者の割合 80%以上

基準値:齲蝕のない者の割合 3 歳児 59.5%

(平成 10 年度 3 歳児歯科健康診査結果)

指標の目安

[齲蝕のない幼児の割合(3 歳)]	現状	2010 年
全国平均	59.5%	80%以上

2 3 歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合の増加

目標値:3 歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合 50%以上

基準値:フッ化物塗布経験のある者 3 歳児 39.6%

(平成 5 年歯科疾患実態調査)

指標の目安

[受けたことのある幼児の割合(3 歳)]	現状	2010 年
全国平均	39.6%	50%以上

3 間食として甘味食品・飲料を 1 日 3 回以上飲食する習慣を持つ者の割合の減少

指標の目安(参考値:久保田らによる調査、平成 3 年)

[習慣のある幼児の割合(1歳6ヶ月児)]	現状	2010 年
	29.9%	—

B 学童期の齲蝕予防の目標

1 12 歳児における 1 人平均齲蝕数(DMF 歯数)の減少

目標値:12 歳児における 1 人平均齲蝕数(DMF 歯数) 1 歯以下

基準値:1 人平均齲蝕数 12 歳児 2.9 歯

(平成 11 年学校保健統計調査)

指標の目安

[1 人平均齲蝕数(12 歳)]	現状	2010 年
全国平均	2.9 歯	1 歯以下

2 学齢期におけるフッ化物配合歯磨剤使用者の割合の増加

目標値:学齢期におけるフッ化物配合歯磨剤使用者の割合 90%以上

指標の目安(参考値:荒川らによる調査、平成3年)

[使用している人の割合]	現状	2010年
	45.6%	90%以上

3 学齢期において過去1年間に個別的歯口清掃指導を受けたことのある者の割合の増加

目標値:学齢期において過去1年間に個別的歯口清掃指導を受けたことのある者の割合 30%以上

指標の目安(参考値:平成5年保健福祉動向調査)

[過去1年間以内に歯磨き指導を受けたことのある者の割合]

	現状	2010年
全国平均	12.8%	30%以上

C 成人期の歯周病予防の目標

1 40、50歳における進行した歯周炎に罹患している者(4mm以上の歯周ポケットを有する者)の割合の減少

目標値:40、50歳における進行した歯周炎に罹患している者(4mm以上の歯周ポケットを有する者)の割合 3割以上の減少

指標の目安(参考値:富士宮市モデル事業)

[有する人の割合]	現状	2010年
40歳	32.0%	22%以下
50歳	46.9%	33%以下

2 40、50歳における歯間部清掃用器具を使用している者の割合の増加

目標値:40、50歳における歯間部清掃用器具を使用している者の割合それぞれ50%以上

基準値:歯間清掃用器具を使用している者の割合

40歳(35歳~44歳)	19.3%
50歳(45歳~54歳)	17.8%

(平成5年保健福祉動向調査)

指標の目安

[有する人の割合]	現状	2010年
40歳(35歳~44歳)	19.3%	50%以上
50歳(45歳~54歳)	17.8%	50%以上

3 喫煙が及ぼす健康影響についての知識の普及

基準値:喫煙で以下の疾患にかかりやすくなると思う人の割合

肺がん 84.5% ぜんそく 59.9% 気管支炎 65.5%
心臓病 40.5% 脳卒中 35.1% 胃潰瘍 34.1%
妊娠への影響 79.6% 歯周病 27.3%

(平成 10 年度喫煙と健康問題に関する実態調査)

4 禁煙支援プログラムの普及

禁煙、節煙を希望する者に対する禁煙支援プログラムを全ての市町村で受けられるようにする。

D 歯の喪失防止

1 80 歳における 20 歯以上の自分の歯を有する者の割合及び 60 歳における 24 歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加

目標値:80 歳における 20 歯以上の自分の歯を有する者の割合 20%以上

60 歳における 24 歯以上の自分の歯を有する者の割合 50%以上

基準値:20 歯以上の自分の歯を有する者 75~84 歳 11.5%

24 歯以上の自分の歯を有する者 55~64 歳 44.1%

(平成 5 年歯科疾患実態調査)

指標の目安

[自分の歯を有する人の割合]	現状	2010 年
80 歳(75 歳~84 歳)で 20 歯以上	11.5%	20%以上
60 歳(55 歳~64 歳)で 24 歯以上	44.1%	50%以上

2 定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合の増加

目標値:定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている者の割合 30%以上

指標の目安(参考値:平成 4 年寝屋川市調査)

[過去 1 年間に歯石除去等を受けた者の割合]	現状	2010 年
60 歳(55 歳~64 歳)	15.9%	30%以上

3 定期的な歯科検診の受診者の増加

目標値:定期的に歯科検診を受けている者の割合 30%以上

基準値:過去 1 年間に歯科検診を受けた者 55 歳~64 歳 16.4%

指標の目安(平成 5 年保健福祉動向調査)

[自分の歯を有する人の割合]	現状	2010 年
60 歳(55 歳~64 歳)	16.4%	30%以上

参考資料 5

厚生労働科学研究(宮武班)の概要

厚生労働科学研究の概要

【研究名】:新たな歯科医療需要等の予測に関する総合的研究

【主任研究者】:宮武光吉((財)口腔保健協会理事)

【研究の概要】

本研究は、諸外国における歯科医師需給調整等に関する制度を含む施策等について、その影響や効果等を中心に検証を行うとともに、歯科医師の就業形態や地域における適正数等を含めた歯科医師の将来推計や新たな歯科医療需要の在り方等についても検討を行うものである。

【研究の目的】

歯科医療を取り巻く社会情勢の変化等(これまでの歯科医師需給対策・歯科診療形態の変化・女性歯科医師の増加・歯科医療技術の高度化など)を踏まえ、

- ① 新たな歯科医療需要の調査
- ② 将来の歯科医師需給バランスの検討
- ③ 諸外国での歯科医師需給を含む施策の検証
- ④ 我が国における歯科医師需給問題への政策提言
を実施

社団法人 日本歯科医師会 御中

日本歯科医師会の広報活動に対する調査 総合分析

2005年 7月22日

dentsu

株式会社 電通パブリックリレーションズ

調査目的

社会(一般生活者)に、より受け入れられる広報活動展開に向けた、日本歯科医師会を取り巻く広報環境の把握・分析

調査の構成

3つの意識調査を実施

日本歯科医師会
会員モニター分析

会員モニターによる「日歯広報」への寄稿
(意見・提案)をテキストマイニングにより分析

一般生活者意識調査

一般生活者に対するWebアンケート調査

調査対象：全国の20～60代の男女個人
有効回収：1000サンプル
各年代200サンプル(男女各100サンプル)

識者インタビュー調査

メディアの有識者に対する面接インタビュー調査

下記メディアの医療担当者を対象 計5ケース実施

①TV ②全国紙 ③健康・医学雑誌

④業界専門紙 ⑤通信社

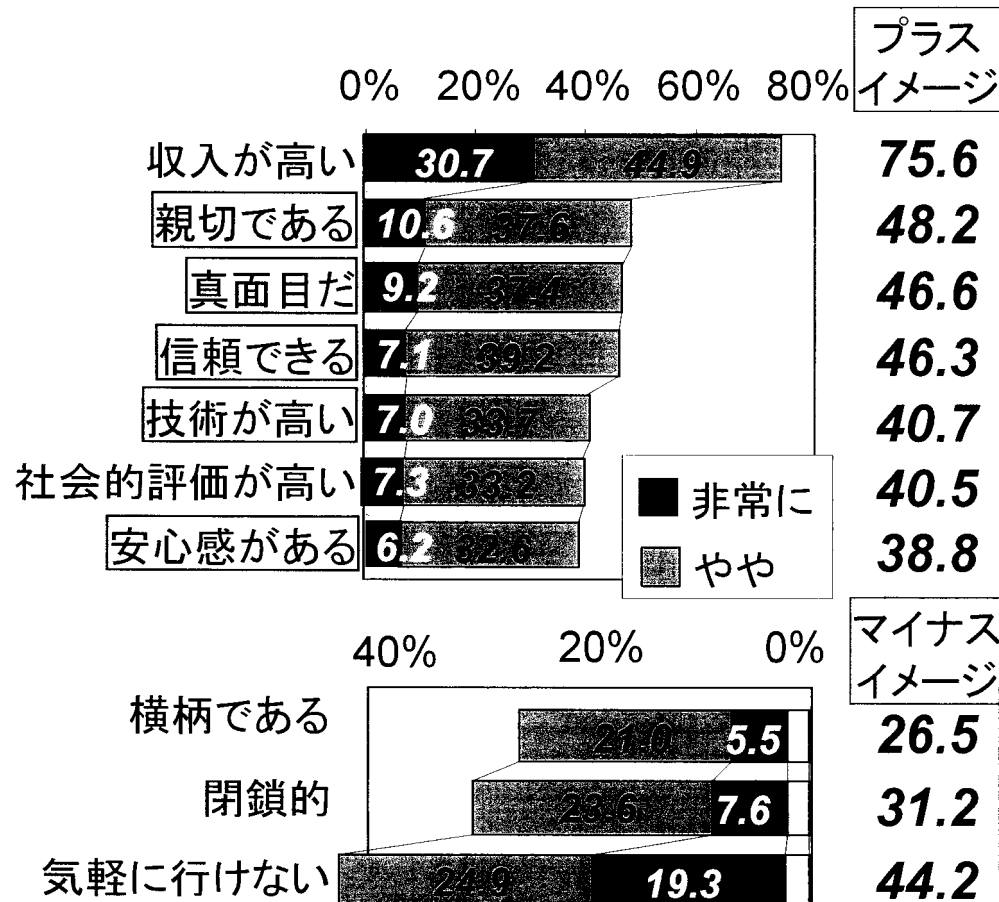
調査結果から 見た課題

1. イメージ・認知の状況—社会環境における課題

□ 歯科医・歯科医院のイメージは、比較的ポジティブで好評価。
 — 「親切」「真面目」「信頼できる」「技術が高い」。

一般生活者意識調査 全体【N=1000】

歯科医師・歯科医院の印象(各SA=単数回答)



歯科医師・歯科医院の現状に対する評価(各SA)

評価	評価できる (%)	評価できない (%)
歯科医院の病室や待合室の清潔さ	70.5	
歯科医院の受付の対応	65.0	
歯科医院の病室や待合室の雰囲気	57.3	
治療に対する説明のわかりやすさ	56.6	
治療に対する歯科医師の事前の説明	54.8	
歯科医師の治療の技術	50.3	
治療費の値段		38.5
治療費に対する歯科医師の説明		45.7
治療費の内訳のわかりやすさ		49.1

1. 認知・イメージの状況—社会環境における課題

□ 日本歯科医師会の社会的認知は低く、活動内容・存在意義が知られていない。イメージも歯科医の好イメージとギャップ

- 一般生活者のほとんどは「名前だけ」の認知。歯科医・歯科医院のポジティブイメージと日本歯科医師会の認知やイメージがリンクしていない。

一般生活者意識調査 全体【N=1000】

日本歯科医師会の認知度(SA)

	活動内容まで詳しく知っている	活動内容をいくつか知っている	名前を知っている程度	まったく知らない
全体	2.2	6.2	75.3	17.3
男性	1.7	7.4	73.6	17.4
女性	0.8	5.0	77.0	17.2
20代	0.5	4.5	60.5	34.5
30代	0.5	4.5	71.5	22.5
40代	0.2	3.5	81.5	13.0
50代	0.7	7.0	82.5	9.0
60代	0.5	11.5	80.5	7.5

日本歯科医師会のイメージ/比較(SA) (%)

内容
認知者 認知者

7.4 82.7

9.0 82.6

5.8 82.8

5.0 65.5

6.0 77.5

5.5 87.0

8.5 91.0

12.0 92.5

プラスイメージ

収入が高い

75.6

-

親切である

48.2

2.3

真面目だ

46.6

9.3

信頼できる

46.3

8.5

技術が高い

40.7

-

社会的評価が高い

40.5

17.2

安心感がある

38.8

7.4

マイナスイメージ

閉鎖的

31.2

52.1

不透明

-

55.7

非庶民的

29.2

58.9

身近でない

28.4

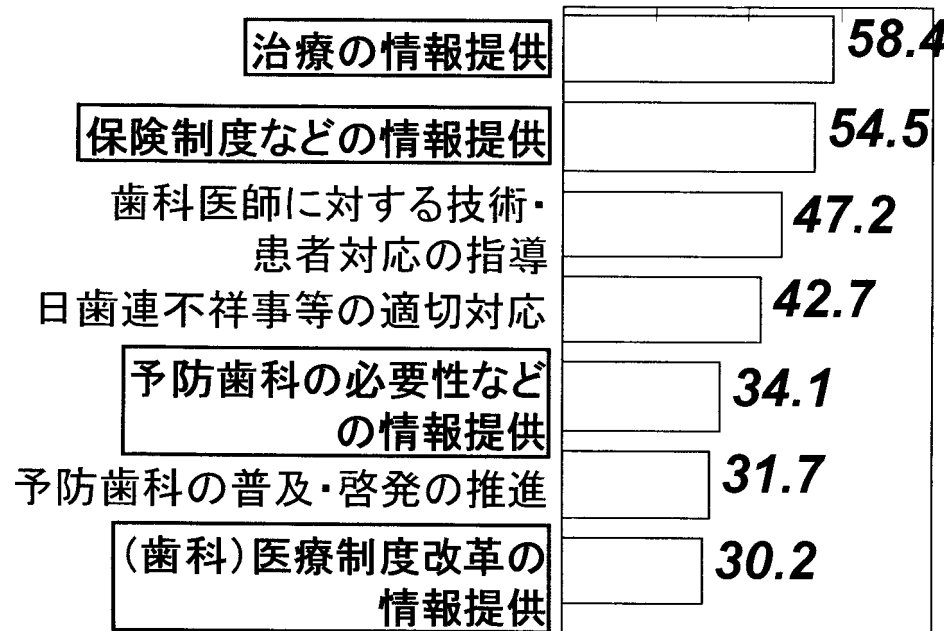
63.4

■ 活動内容まで詳しく知っている □ 活動内容をいくつか知っている
□ 名前を知っている程度 □ まったく知らない

- ユーザーは、歯科に関する情報提供が全般的に不足と考えている
 - － 一般生活者・識者ともに、歯科医そのものや治療技術に関する情報不足に不満を感じている。
- 詳しい治療内容や治療費の内訳等、歯科医に「説明責任」を求めている
 - － 「治療費を安く」との要望は常に多数であるが、広報的に注目すべきは「費用の内訳の説明」「詳しい治療法や費用の違いの情報を」など、提供される治療に対して納得できる説明責任を求めていることである。

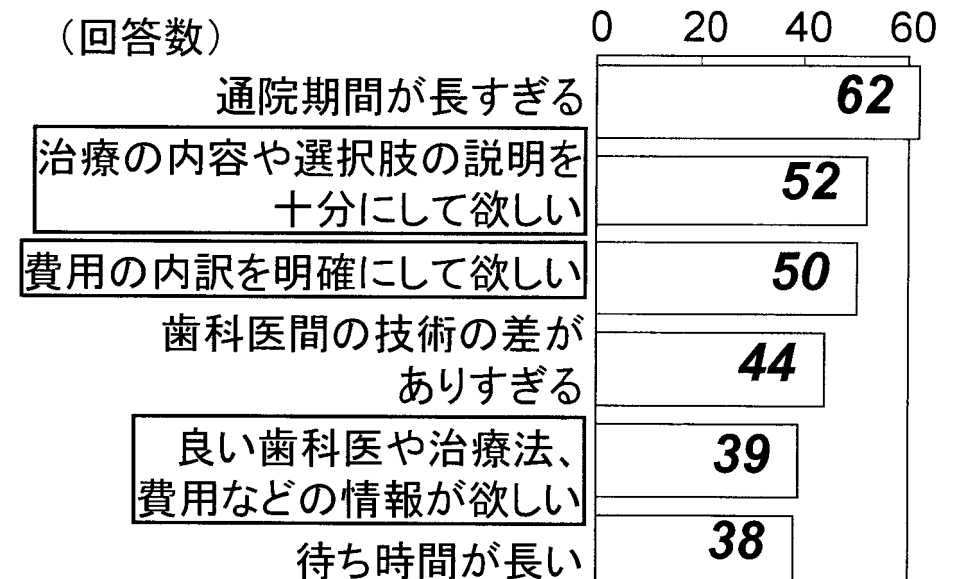
日本歯科医師会の活動としての期待(MA)

情報提供 計 76.0% 0 20 40 60 80%



一般生活者意識調査 全体【N=1000】

歯科医師・歯科医院への要望(自由回答)



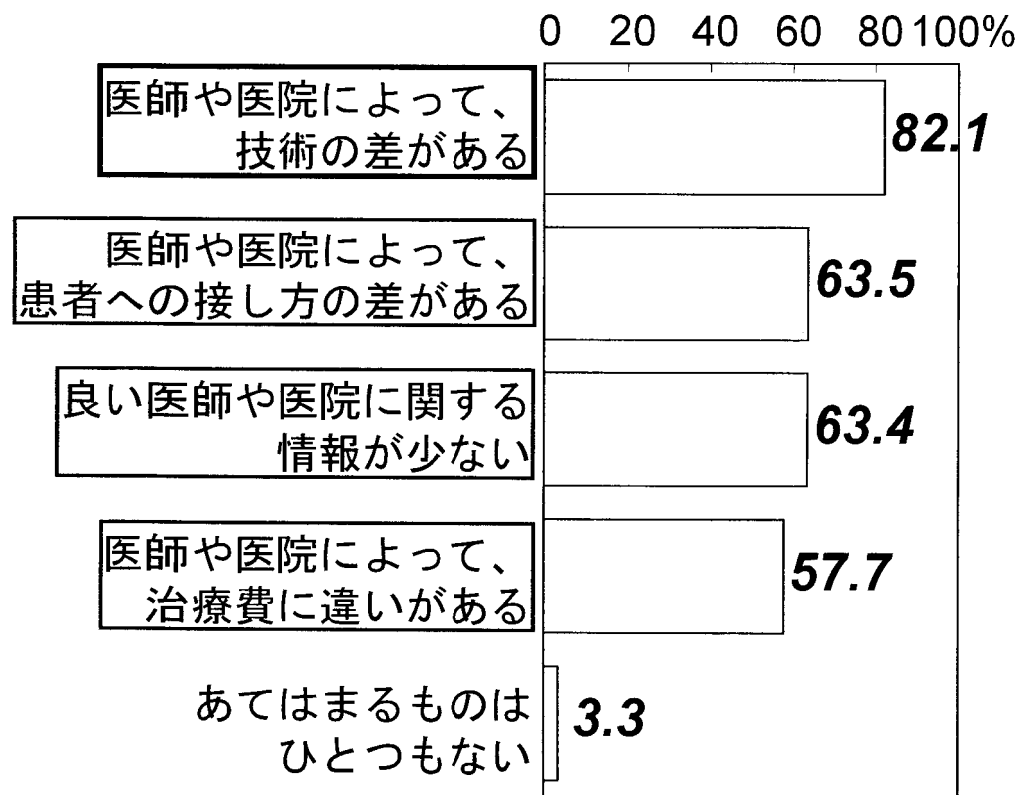
□ 技術や患者への接し方など、歯科医のレベルの標準化を要望

- “良い歯科医”の情報提供とともに、「歯科医の技術＝腕」や「患者の接し方」に差があるとの不満があり、これらの標準化（患者が選べる基準／ガイドライン等）およびその情報提供が求められている。

一般生活者意識調査 全体【N=1000】

識者インタビュー調査

歯科医師・歯科医院をめぐる状況の評価(MA)



- ✓ 他の医師と比べても歯科医は腕・技量に差がある、治療法が人により異なる、といったイメージが強い。
- ✓ 治療技術や優秀な歯科医か否かについて、患者が判断できる客観的な指標情報が無い（ガイドラインや認定医、あるいは病院ブランドの確立等）。
- ✓ 日本歯科医師会の役割は、歯科医の技術向上と最新研究・知見の情報提供。

- 歯科領域のトピックは、他の医科領域に比べて、一般の関心が低くなりがちのため、メディアに取り上げられにくい、と認識されている
 - － メディア関係者（識者）は、医科に比べて歯科領域の話題は生死に関わらないために、一般の人々にとって重要性や関心が低いと認識。結果的に記事にしにくいと指摘している。
- 「予防歯科医療」も、一般的なインパクトに欠け、PRに「工夫が必要」
 - － 「予防歯科医療の普及」は、一般生活者・識者ともに良い取組みと評価している一方、喫緊の課題として人々が捉えづらい傾向があるテーマのため、PRをしていく上では関心を引く工夫が必要、としている。

識者インタビュー調査

- ✓ メディアとして、歯科領域の話題一般は、医科に比べて“生死に関わらない”ため、重要性や関心が低いと認識。
- ✓ やはり「歯は痛くならない」と一般の人は関心を持たない。
- ✓ “技術”の側面が強く、記事や番組コンテンツにしにくい。

- ✓ 日本歯科医師会が取り組むテーマとして、“予防歯科”は一般的にインパクトに欠けるテーマであるから、PRに工夫が必要。

3. 歯科領域における広報トピックの課題

□ 歯科の話題は、技術中心で話題性に乏しく、進歩も遅いと見られている
- メディア関係者（識者）は、医科に比べて歯科の話題は技術中心で話題性に乏しく、学術的な進歩のスピードも遅いと見ており、メディアとして取り上げにくいと考えている。

識者インタビュー調査

✓ 歯科の技術的な話題については、技術革新の遅さ、話題性の乏しさ、一般性の無さなどの点でとりあげづらい

